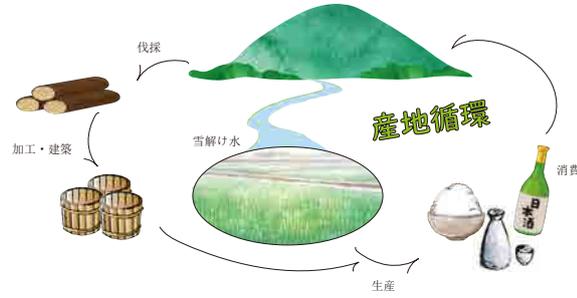


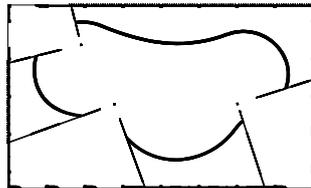
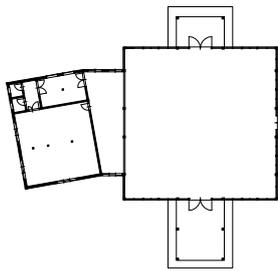
こごさあべ

コンセプト

新庄市の魅力である田んぼと積雪は、一見当たり前のようにあるものですが、四季に大きく関係しており、一年を通して建築も見え方が変化します。それらを利用した四季によって見え方が変わる建築を作り、お米を中心とした山形の産業を循環させる新庄市のシンボルを設計する。

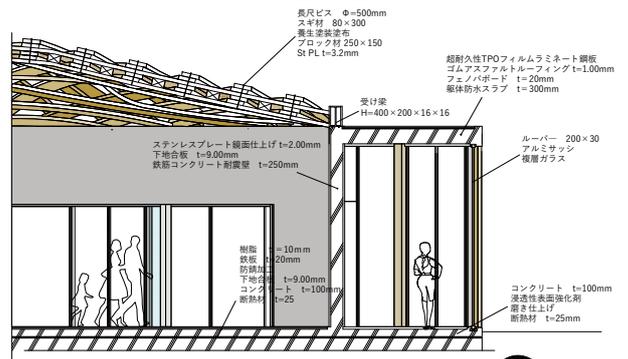


近江 恭介
建築設計計画 | 研究室



①情報館・展示室 1/1000

5000 10000



①外観

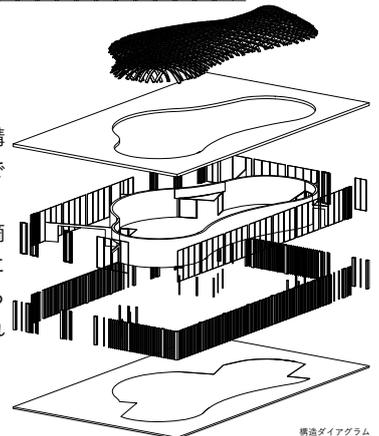


①内観

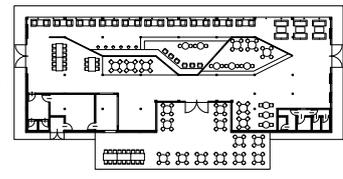
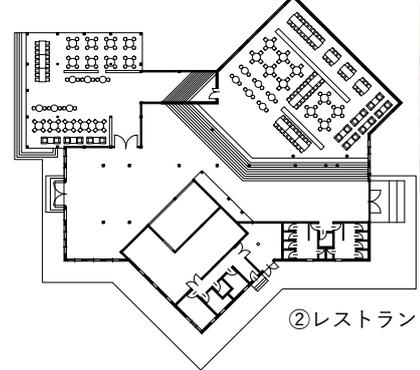
空間を変える構造体 雪庇屋根

雪庇屋根は、 $80\text{mm} \times 300\text{mm}$ のスギ材を三方向から重ねることのできた三角形の網上の構造体です。間をブロック材で補強することで新庄市の積雪に耐えゆる屋根にしました。

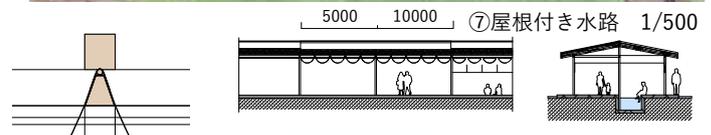
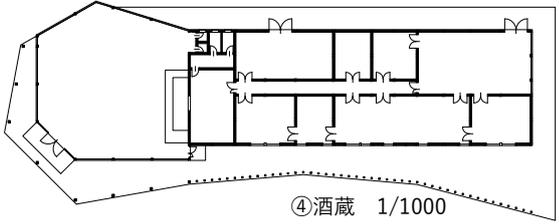
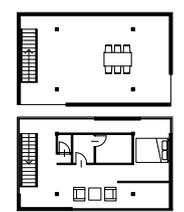
夏は隙間から風が抜け出し雨の日は水が滴ります。冬はそこに雪が積もり鎌倉のようになります。積雪量によっては、雪の隙間から太陽の光が透けることで青白い空間が生まれます。



構造ダイアグラム



⑤宿泊施設 1/500



⑦屋根付き水路 布接合部

